あったに違いないと存じます。

しかし，直ちに情報を返却することとその遺伝学的情報を解析するには，膨大な労力と費用を要していたと思われ，それは厚労省の科学研究補助金がなければ，到底なし得なかったものと理解します。

一方，厚労省の科学研究補助金は通常は3年で打ち切られ，その後は自力で遂行するのが原則です。今後，この疫学調査が続けられるか否かという問題は目の前に迫っている筈であります。

今後どうするのか，このような疫学調査は，本来国が責任をもってやるべきことと理解しておりますが，それには感染症関連学会の協力が必要で，主だった地域の関連施設に研究センターを設け，各施設の検査技師諸君が自らをも検査が出来るようにすることが必要であります。そのことを今までにも私は各関連学会で何回も申し上げておりますが，未だに実現しないでいることを大変残念に思っております。

本学会でも，この機会にそのことを真剣に考えて頂きたいと強く要望するものであります。

第四には，肺炎球菌あるいはHibワクチンの接種が本邦で施行され，髄膜炎の発症率が低下しつつあることは喜ばしいことですが，本日の演者のお話にもありましたように，1歳以下の乳幼児の発症率は決して低くなったとは言い得ない状況にあります。また，莢膜血清型が変化しつつあることも明示されたように思います。

この原因は，生後6ヶ月未満の乳児にあっては，どのようにワクチンを接種しても感染防御に役立つ程の抗体を産生するには未熟であること，それに加えて，莢膜多糖体を抗原とするワクチンである限りは，抗菌薬に耐性を示す菌が出現してくるのと同様に，起炎菌は次々と変化してくることを意味します。

今後は胎盤を通過する妊婦の抗体を如何にして防御レベルのあるものにしていくかということと，莢膜多糖体に依存しない万能のワクチンを考えていく必要があります。どうか，そのことを関連各位は真剣に考え，研究して頂きたいと心から願っております。

第五に抗菌薬のことについて申し上げておきます。呼吸器感染症に関与する細菌は第一に肺炎球菌，第二にマイコプラスマ，第三にインフルエンザ菌で，そのvirulenceもまた，この順です。一方，内因性とも言える重症レンサ球菌感染症に関与する細菌の第一はA群溶血性レンサ球菌，第二はB群溶血性レンサ球菌，第三はC群あるいはG群に属する溶血性レンサ球菌であります。

そして，これらの感染症に対しては，既存のマクロライド系薬はもはや全くといってよいほど無効であります。なぜ，行政当局は既存のマクロライド系薬の使用に関して規制を掛けないのか，それは罪悪であるとさえ感じます。

中には，それでもマクロライド系薬は有効であると言われる先生方がおられることも承知しておりますが，マクロライド系薬の多くは自然寛解も含まれる気道感染症に使用されているだけのことであります。それこそ無駄な医療費であります。

これらの重症疾患の初期治療として重要なことは，マクロライド系薬やキノロン系薬を投与するよりも，先ずペニシリン製剤を投与することであります。

重症感染症の中には，当節の抗菌薬適正投与という風潮に流されて，初期の抗菌薬投与を怠った結果，死に至ったと考えざるを得ない症例も多くあります。適切な対処法も明示せず，ただ抗菌薬の適正投与と叫ばれても，一番被害を受けるのは患者であることを感染症関連学会の関係者は理解すべきです。

もはや，末梢白血球数やCRPの迅速な測定は，簡便な測定機器があってどのような医療施設でも可能なはずです。単なる打聴診による診察だけではなく，高熱のある患者，筋肉痛や四肢の疼痛を特に強く訴える患者においては末梢白血球数やCRPは最低限検査すべきです。

CRPは感染症の診断に役に立たないという米国の説もありますが，乳幼児ではCRPの測定は十分に役立ちます。せめてCRPや末梢白血球数が多い患者に対しては，ペニシリンを投与し，翌日の再来院を勧めることが，抗菌薬の適正投与に繋がる最大の方法ではないでしょうか。

以上が本日のシンポジウムから感じたことでありますが，ことに感染症関連学会の理事の方々には，これらの改善策を是非とも考え，実施して頂きたいと強く願っております。

サテライトセミナー講演集：急速な高齢化社会の到来と国際化に伴い変貌する市中型重症感染症：—肺炎球菌とβ溶血性レンサ球菌—

平成24年3月19日　印刷
平成24年3月23日　発行

編集人　生方　公子
発行人　生方　公子

非売品

印刷所：新日本印刷株式会社
〒162-0801　東京都新宿区山吹町342
Tel(03)3269-6311　FAX(03)3269-4427

発行所：北里大学北里生命科学研究所
病原微生物分子疫学研究室
〒108-8641　東京都港区白金5-9-1
Tel(03)5791-6385　FAX(03)5791-6386

（無断転載はお断りいたします）

サテライトセミナー講演集

急速な高齢化社会の到来と国際化に伴い変貌する市中型重症感染症
－肺炎球菌とβ溶血性レンサ球菌－